

平成 27 年度事業報告

(1) 糖尿病の予防及び治療に関する正しい知識の普及啓発事業

1-1 「糖尿病ライフさかえ」の発行

協会誌として様々な企画を盛り込みながら、親しみやすい内容で糖尿病の治療に関する正しい知識の啓発を行った。

1-2 糖尿病関連書籍の発行

「糖尿病食事療法のための食品交換表」、「糖尿病食事療法のための食品交換表活用編」、「糖尿病性腎症の食品交換表」、「糖尿病治療の手びき」を発行した。

1-3 全国糖尿病週間の実施

平成 27 年 11 月 9 日(月)から 15 日(日)までを全国糖尿病週間とし、「ライフステージにあわせた糖尿病治療」のテーマのもと、日本糖尿病学会との共催、厚生労働省、日本医師会、日本放送協会、日本糖尿病財団、日本歯科医師会の後援を得て、全国各都道府県糖尿病協会を中心に糖尿病に関する講演会、血糖測定、医療相談、栄養相談の事業を実施し、約 70,000 名の参加者があった。

1-4 糖尿病シンポジウム等のイベントの実施

- ・東京(11月14日)、愛知(28年3月13日)、において、糖尿病シンポジウムを開催し、延べ600名以上の来場者を迎えた。当協会の事業内容の周知を図るとともに、糖尿病に関する正しい知識の啓発を行った。
- ・日本糖尿病財団との共催により、徳島(11月29日)にて糖尿病予防キャンペーンを開催、延べ400名が来場した。

1-5 世界糖尿病デー関連のイベントの実施

11月14日に第9回「世界糖尿病デー」のイベントとして、都道府県糖尿病協会を中心に国内189ヶ所、また世界で約1,000ヶ所のモニュメントがブルーにライトアップされた。また、各地で街頭イベント(血糖測定・ウォーキング)・講演会等を実施し、全国で世界糖尿病デーの啓発事業を行った。

1-6 Team Diabetes Japan

国内外5か所のマラソン大会に参加し、糖尿病の予防や治療についての啓発を行った。マラソン参加者等にチャリティTシャツとキャップを販売し、その収益を日本糖尿病協会に寄付した。

1-7 HbA1c 認知向上運動の実施

企業委員であるサノフィ(株)と共催で「ヘモグロビン・エー・ワン・シー認知向上運動」を千葉県で12月6日に開催した。市民を対象に、糖尿病の予防・普及啓発の一環として実施し、街頭イベントを通じてHbA1cの知識の向上や重要性を訴求した。合計で約600人が参加した。

1-8 ウォークラリーの実施

運動療法としてウォーキングを楽しみながら、糖尿病の正しい知識を身につけることを目的として、企業委員であるノボルディスクファーマ(株)と共催で、全国43か所で約6,000人が参加し

てウォークラリーを開催した。

1-9 療養指導者向け雑誌「DM Ensemble」の発行

糖尿病療養指導者（主に日糖協登録医、歯科医師登録医、コメディカルスタッフ）を対象とした糖尿病治療の最新情報を提供する「DM Ensemble」を季刊で年4冊発行した。また、第3回日本糖尿病協会療養指導学術集会を特集した増刊号を11月に発行し、定期購読者に配布した。

1-10 登録医・療養指導医・歯科医師登録医制度の展開

日糖協登録医が1,509名、療養指導医2,547名、登録医から療養指導医への昇格者も586名となった。また、日糖協歯科医師登録医の登録数が3,533名となった。

1-11 日糖協CDEネットワークの構築

糖尿病チーム医療の推進のため、全国のCDEL組織の活動の支援を行った。先行する地区の組織運営に関する情報や認定のための試験問題を収集し、新規に設立する団体への提供を行った。組織運営を支援する目的で、申請のあった25団体に助成を行った。さらに、第3回日本糖尿病協会療養指導学術集会では、CDEL22団体の活動発表と情報交換の場を設けて、団体間の交流を促進した。

1-12 糖尿病カンパセーション・マップ™を活用した療養指導の普及

IDFが推進する糖尿病教育用「糖尿病カンパセーション・マップ™」の普及を図る目的で、体験編と実践編に分けたトレーニングを11ヶ所（大阪2回・京都・名古屋・東京2回、札幌、福岡、出雲、佐賀、秋田）で開催し、397人が出席した。

1-13 新しい糖尿病運動療法ブルーエクササイズの普及

ブルーエクササイズの普及に向けた効果検証として、糖尿病シンポジウムなどのイベント時にデモンストレーションを実施し、約500名の参加者が体験した。

1-14 日糖協療養指導学術集会の開催

7月25・26日に京都で第3回日本糖尿病協会療養指導学術集会を実施した。1,162名の参加を得た。スモールグループディスカッションでは、9テーマ、112グループに分かれての議論を展開したほか、新たに教育講演6本、Meet the Expert 6本、日糖協の療養指導資材を紹介するモーニングセミナーも実施した。イブニングセミナーでは、初めて患者さんが登壇し、糖尿病治療を受ける側の生の声を発表した。

1-15 地域での医療従事者対象啓発活動の支援

登録医・療養指導医・歯科医師登録医・CDEを対象とした講習会について資格更新対象講習会としての認定や後援等を行い、また、医療従事者を対象とした薬剤の適正使用のための啓発活動の支援を行った。

1-16 チャレンジ！糖尿病いきいきレシピコンテストの開催

若い世代への糖尿病啓発と糖尿病食事療法のレシピ開発を目的に、栄養を学ぶ学生を対象とするレシピコンテストを実施した。（募集期間：6月1日～7月31日 二次審査・表彰式：10月4日）全国から64校223件の応募があり、前年比+104件と倍増した。二次審査に進んだ12チームの中から5作品を表彰し、入賞作品をレシピブックをとって編集し、会員に配布した。

1-17 健康配慮型弁当の監修

合同会社西友と連携して、糖尿病予防のための食習慣の見直しを啓発する目的で、カロリーや栄

養バランスを考慮した弁当を監修した。11月6日～30日の期間中、全国の西友341店で販売した。

1-18 勤労者医療フォーラムの共催

働く世代の受診勧奨・治療中断阻止を啓発する目的で、勤労者医療フォーラム「第3回就労と糖尿病治療の両立」を労働者健康福祉機構と共催した。

1-19 糖尿病療養指導カードシステムの制作・普及

新しい療養指導資材となる「糖尿病療養指導カードシステム」を開発し、第3回日本糖尿病協会療養指導学術集会で発表した。普及のための講習会を企画し、茨城、福岡で実施した。

1-20 糖尿病教育DVDの制作

糖尿病教室などで活用できる「運動療法のすすめ」4巻シリーズを、企業委員である大正富山医薬品(株)の協力を得て制作。また、療養指導のポイントをチームで考える「糖尿病療養指導士 学習支援DVD」第1巻を、企業委員であるアステラス製薬(株)の協力を得て制作した。

1-21 医療者教育eラーニングの準備

登録医、療養指導医、産業医等を対象とするeラーニングシステムの構築準備を行った。

(2) 糖尿病の予防及び治療に関する調査・研究事業

2-1 調査研究

- ・インスリンアナログ混合製剤1日2回投与あるいは持効型溶解インスリンアナログ製剤1日1回投与によるインスリン導入の検討

最終解析結果を第58回日本糖尿病学会年次学術集会にて口演発表した。

- ・経口糖尿病治療薬(インクレチン関連薬を含む)投与に関する実態調査研究 (UNITE Study)
最終解析結果を第58回日本糖尿病学会年次学術集会、Incretin 2015、第19回日本病態栄養学会年次学術集会にて口演発表、アジア糖尿病学会年次学術集会でポスター発表した。

- ・65歳以上の高齢者2型糖尿病における、シタグリプチンあるいはグリメピリドによる有効性および安全性に関する比較検討試験 (START-J)

最終解析結果を第58回日本糖尿病学会年次学術集会、Incretin2015にて口演発表、アジア糖尿病学会年次学術集会でポスター発表した。

- ・インスリン製剤とシタグリプチン併用による有用性の検討-前向き観察研究- (I-UNITE Study)
症例登録を締め切り、188施設から登録された1,753症例についてデータ収集を継続している。

- ・トホグリフロジンの安全性および有効性の検討-前向き観察研究- (AYUMI)

症例登録を2017年5月まで継続し、データ収集を行っている。

2-2 よりよい医療の提供に向けた、血糖値をはじめとする糖尿病患者のデータの集積・解析 (EDDP : Electronic Diabetes Data Project)

事業化に向けた体制の検討を行った。

2-3 糖尿病に関する基礎的・臨床的な研究を行う若手研究者に対する助成

申請課題より10題を採択し、助成を行った。

(3) 糖尿病の患者及び家族に対する療養指導事業

3-1 糖尿病友の会の活動支援

全国の都道府県糖尿病協会を通じ、糖尿病友の会の活動の支援を行った。

3-2 糖尿病療養に役立つグッズ、冊子類の発行

製薬・医療機器企業等の協力を得て、糖尿病連携手帳、自己管理ノート、IDカード、英文カード、療養に役立つグッズの製作・頒布を行った。糖尿病連携手帳は、内容を大幅に見直した第3版を発行した。

3-3 1型糖尿病対策

・小児糖尿病サマーキャンプの支援

小児1型糖尿病患児にインスリン自己注射や血糖自己測定などの正しい治療方法や食事療法、運動療法を習得させ、充実した日常生活を送ってもらうことを目的に、小児糖尿病生活指導講習会(サマーキャンプなど(50ヶ所)をTOOTH FAIRYプロジェクト(日本歯科医師会と日本財団)の助成金を受けて開催した。キャンプには、1,222人の1型糖尿病患児と5,036人の医療者を中心とするボランティアスタッフが参加した。

・1型糖尿病に加えて他の障害も持つ二重課題を抱えた患児の実態把握と支援策を検討する目的で、全国の特別支援学校にアンケート調査を実施した。343校中135校から回答が寄せられ、回答率は約40%に上った。

3-4 インスリンケアサポート事業

・患者によるピアサポートを目的とする「インスリンメンター制度」を立ち上げ、若い1型糖尿病患者からなる10人のインスリンメンターを養成した。5人のメンターが宮城、新潟、徳島、愛媛、佐賀のサマーキャンプに参加して患児や家族を支援した。

(4) 糖尿病に関する海外関係団体との連携事業

4-1 IDF/IDF-WPR

・カナダ・バンクーバーで11月29日-12月4日に開催されたIDF Congress 2015に参加し、General Assemblyで議事に参加するとともに、Global Villageにおいて、日糖協の活動をパネル展示や英文パンフレット配布を通じて紹介した。

・IDF Congress期間中の11月29日に開催されたIDF-WPR Council Meetingにおいて、鈴木万平糖尿病財団の助成終了に伴う、IDF-WPR Diabetes Foot Care Projectの完了を報告した。

4-2 AASD

・事務局業務を担当し、AASD Diabetes Foot Care Project/Diabetes Nutrition Assessment Collaboratorsの運営を支援した。

・香港で11月21-22日に開催された7th AASD Scientific Meetingにて、「START-J」「UNITE Study」のポスター発表を行った。

4-3 Incretin 2015

インクレチン発見45周年を記念してカナダ・バンクーバーで7月29-31日に開催された国際学術集会を、国際糖尿病基金を活用して助成した。

(5) その他本協会の目的を達成するために必要な事業

5-1 会員増強

個人の賛助会員（サポーター会員）の会費を5年間で500円に変更するとともに、サポーター証を制作してさらなる獲得を目指した結果、約6,000人のサポーターを獲得した。また、協会案内、入会申込チラシ、「友の会」案内、さかえチラシを制作し配布を行った。

5-2 他団体との連携

・CDEJ および CDEL 組織との連携強化

日本糖尿病療養指導士認定機構と第3回日本糖尿病協会療養指導学術集会を共催した。

各地のCDEL組織25カ所に補助金を支出、認定試験問題や規約類の提供などを通じて支援を行った。

・日本歯科医師会との連携強化

歯科医師登録医の更新期に際し、日本歯科医師会と連携し更新手続きを促進した。

日本財団と日本歯科医師会が実施するTOOTH FAIRYプロジェクトから、18ヶ所の小児糖尿病サマーキャンプへ31人の歯科医師派遣を受けた。

・日本糖尿病対策推進会議への協力

医科歯科連携を検討するワーキンググループ会議および総会に出席した。

厚生労働省と日本糖尿病対策推進会議による「糖尿病性腎症重症化予防に関する連携協定」を締結し、調印式に出席した。

・日本介護支援専門員協会との連携強化

医療と介護の連携を目指して、要介護支援症例に携わるスタッフの糖尿病勉強会を14ヶ所で実施し、約630人のケアマネジャー、60人の医師が参加した。また、ケアマネジャー向けの糖尿病学習テキストの制作検討を行った。

5-3 災害時危機管理対策

災害に備えてインスリンの分散保管を啓発する「防災意識啓発ミニチラシ」の配布活動を、福島県、新潟県で準備した。

5-4 広報事業

・プレスリリース（6回）発信

・日糖協 facebook ページで毎日糖尿病に関する情報を発信するとともに、1型糖尿病を持ちながら一線で活躍するアスリートや歌手などを特集する企画を実施した。

・ライオンズクラブ 335-B 地区（大阪・和歌山）のセミナーにおいて、糖尿病啓発と協会活動の広報を実施した。

5-5 糖尿病医薬品・医療機器等適正化

・インスリン製剤区分表示の共通化

第一段階：各社製品のラベルに「持効」「超速効」の共通の文言の記載を開始した。

第二段階：共通製剤区分マークを作成した。

・廃棄物の処理方法の周知啓発

関係企業での合意を形成し、実施に向けた作業を行った。

・血糖測定機器の保守管理・適正使用啓発

関係企業での合意を形成し、実施に向けた作業を行った。

- ・抗 GAD 抗体測定系変更に伴う判定の乖離検証

検査会社データの集約し検証を行い、Q&A を作成した。

5-6 表彰事業

日本糖尿病協会賞（アレテウス賞、パラメデス賞、ウイリアム・カレン賞、功労賞、立川俱子賞）
小児糖尿病関連賞（ガリクソン賞、小児糖尿病功労賞）、国際交流研究奨励賞の選考と表彰を行った。

5-7 マスコットキャラクター決定

日本糖尿病協会と糖尿病のイメージアップを目指し、マスコットキャラクターの公募を行った。
201 作品の中から「マールくん」をマスコットキャラクターとして選出した。

(6) 業務の適正を確保するために必要な体制の整備

- ・平成27年4月26日の第1回通常理事会にて、委員会運営規則、倫理委員会運営規則を修正した。
- ・平成27年5月31日の定時総会にて、会費に関する規則を修正した。
- ・平成27年9月6日の第2回通常理事会にて、新たに倫理規程、利益相反（COI）に関する指針、利益相反（COI）に関する指針の細則を承認するとともに、倫理委員会運営規則を修正した。

平成27年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。